



2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月9日

上場会社名 株式会社 永谷園ホールディングス

上場取引所 東

コード番号 2899 URL <http://www.nagatanien-hd.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永谷 泰次郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営戦略本部経理財務部長 (氏名) 江口 輝

TEL 03-3432-2511

四半期報告書提出予定日 2019年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	25,188	0.8	704	33.1	438	67.3	194	80.9
2019年3月期第1四半期	24,990	11.9	1,053	73.2	1,338	125.3	1,015	316.0

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 33百万円 (88.7%) 2019年3月期第1四半期 291百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	10.88	
2019年3月期第1四半期	56.43	

当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が実施されたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。なお、「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	86,151	32,534	36.5
2019年3月期	87,943	32,800	36.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 31,465百万円 2019年3月期 31,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		7.75		15.50	
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		15.50		15.50	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。2019年3月期の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「-」として記載しております。株式併合後の基準で換算した1株当たり年間配当額は、2019年3月期、2020年3月期いずれも31円となります。

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,000	4.1	3,900	65.5	3,700	49.9	2,100	98.5	117.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、(添付資料) 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、(添付資料) 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	19,138,703 株	2019年3月期	19,138,703 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2020年3月期1Q	1,260,895 株	2019年3月期	1,250,854 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期1Q	17,882,839 株	2019年3月期1Q	17,989,890 株
------------	--------------	------------	--------------

当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が実施されたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、(添付資料) 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境に改善が見られ、景気は引き続き緩やかな回復基調にあるものの、米中間の貿易摩擦の影響や中国経済の減速による海外経済情勢の不確実性の高まりなどにより、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当社グループは、「企業戦略の充実」と「新価値提案力の更なるアップ」を経営課題として企業活動を行ってまいりました結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高25,188百万円（前年同期比0.8%増）となりました。利益面につきましては、原材料費及び物流費が高騰したことにより、営業利益は704百万円（同33.1%減）、為替差損を計上したことにより、経常利益は438百万円（同67.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は194百万円（同80.9%減）となりました。

以下、セグメントの状況は次のとおりであります。

①国内食料品事業

永谷園においては、5月17日の「お茶漬けの日」にあわせて、プロ野球公式戦5球場での「お茶漬けの日スペシャルマッチ企画」の実施や、量販店の店頭や駅前で試供品のサンプリングを行うなど、「お茶づけ商品」の魅力伝えるための取り組みを実施いたしました。加えて、アイドルグループ「欅坂46」を起用し、朝ごはんにおすすめのお茶づけトッピングメニューを提案することにより、若者への喫食機会の拡大を図りました。また、「やさしいとろみのお茶づけ海苔」、「やさしいとろみのあさげ」が「2019JPC（ジャパンパッケージングコンペティション）」にて「和食品部門賞」を受賞いたしました。

以上の結果、国内食料品事業の売上高は15,895百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

②海外食料品事業

Chaucer Groupにおいては、既存取引先への売上拡大などに努めたことにより、米国市場を中心に企業向けフリーズドライフルーツ製品の売上が好調に推移いたしました。

以上の結果、海外食料品事業の売上高は6,270百万円（前年同期比8.3%増）となりました。

③中食その他事業

麦の穂グループにおいては、「ビアドパパ」にて、「熟成抹茶」（5月）等の月替りの限定シュークリームを発売し、売上に貢献いたしました。また、ビアドパパの20周年記念商品として発売した、パイシュークリーム生地にバター香るラングドシャをのせて焼き上げた「ラングドシャシュー」がご好評をいただきました。このほか、新業態として、酒場業態をメインとしながらも、おにぎりのテイクアウトや、自家製麺のうどんをランチメニューとして提供する「カタトソデ」を2019年3月にオープンいたしました。一方で、前第1四半期連結会計期間に一部子会社を売却したことにより売上が減少いたしました。

以上の結果、中食その他事業の売上高は2,971百万円（前年同期比3.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より1,792百万円減少し、86,151百万円となりました。これは主に、機械装置及び運搬具並びに建設仮勘定が増加したものの、受取手形及び売掛金並びに投資有価証券が減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より1,527百万円減少し、53,616百万円となりました。これは主に、電子記録債務が増加したものの、未払法人税等及び長期借入金が増加したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は主に、為替換算調整勘定が増加したものの、その他有価証券評価差額金が減少したことにより32,534百万円となりました。この結果、純資産から非支配株主持分を控除した自己資本は、前連結会計年度末より266百万円減少の31,465百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.4ポイント上昇の36.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの第1四半期連結累計期間の業績は、売上高・利益とも概ね当初計画の範囲内で推移していることから、2019年5月15日発表の通期業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,711	7,838
受取手形及び売掛金	13,810	11,412
商品及び製品	6,549	6,551
仕掛品	1,307	1,395
原材料及び貯蔵品	5,388	5,273
その他	1,484	1,716
貸倒引当金	△54	△51
流動資産合計	36,197	34,135
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,339	18,481
減価償却累計額	△11,843	△11,936
建物及び構築物(純額)	6,496	6,545
機械装置及び運搬具	26,697	27,350
減価償却累計額	△17,825	△18,150
機械装置及び運搬具(純額)	8,872	9,200
土地	11,099	11,137
リース資産	1,914	2,236
減価償却累計額	△986	△1,010
リース資産(純額)	927	1,225
建設仮勘定	369	674
その他	2,473	2,511
減価償却累計額	△1,956	△1,987
その他(純額)	516	523
有形固定資産合計	28,282	29,306
無形固定資産		
のれん	12,681	12,459
その他	284	370
無形固定資産合計	12,965	12,829
投資その他の資産		
投資有価証券	7,540	6,895
その他	3,045	3,068
貸倒引当金	△87	△84
投資その他の資産合計	10,498	9,879
固定資産合計	51,746	52,015
資産合計	87,943	86,151

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,013	6,823
電子記録債務	2,839	3,192
短期借入金	7,458	7,454
未払法人税等	867	311
賞与引当金	625	499
その他	7,234	7,217
流動負債合計	26,038	25,498
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	15,340	14,305
役員退職慰労引当金	86	94
退職給付に係る負債	220	222
資産除去債務	246	255
その他	3,211	3,240
固定負債合計	29,104	28,118
負債合計	55,143	53,616
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,502	3,502
資本剰余金	6,197	6,197
利益剰余金	26,000	25,918
自己株式	△2,353	△2,375
株主資本合計	33,348	33,243
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,911	1,469
土地再評価差額金	△3,394	△3,394
為替換算調整勘定	△148	136
退職給付に係る調整累計額	14	10
その他の包括利益累計額合計	△1,616	△1,778
非支配株主持分	1,068	1,068
純資産合計	32,800	32,534
負債純資産合計	87,943	86,151

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	24,990	25,188
売上原価	14,935	15,561
売上総利益	10,055	9,627
販売費及び一般管理費		
賞与引当金繰入額	125	125
退職給付費用	64	53
給料及び賞与	1,337	1,288
販売促進費	2,907	2,951
運賃及び荷造費	922	965
その他	3,643	3,538
販売費及び一般管理費合計	9,001	8,923
営業利益	1,053	704
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	62	100
為替差益	266	—
その他	41	26
営業外収益合計	373	130
営業外費用		
支払利息	59	62
持分法による投資損失	2	2
為替差損	—	295
その他	28	36
営業外費用合計	89	396
経常利益	1,338	438
特別利益		
固定資産売却益	267	—
特別利益合計	267	—
特別損失		
減損損失	7	13
店舗閉鎖損失	13	0
特別損失合計	21	13
税金等調整前四半期純利益	1,584	424
法人税等	534	229
四半期純利益	1,049	194
非支配株主に帰属する四半期純利益	34	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,015	194

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	1,049	194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	402	△441
為替換算調整勘定	△1,150	284
退職給付に係る調整額	△10	△4
持分法適用会社に対する持分相当額	—	0
その他の包括利益合計	△758	△161
四半期包括利益	291	33
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	320	33
非支配株主に係る四半期包括利益	△29	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、当第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(表示方法の変更)

前第1四半期連結累計期間において、「販売費及び一般管理費」、「営業外収益」及び「営業外費用」に計上しておりました不動産関連の収益及び費用を、前第3四半期連結累計期間より「売上高」及び「売上原価」に計上する方法に変更しております。

この変更は、従来付随事業として位置づけていた不動産事業について、前第3四半期連結会計期間において当社グループが保有する賃貸用不動産を一元管理、運営する部門を新設したことにより、グループの営業活動と密接に関係するようになってきたことから、連結営業損益をより適切に表示するために行ったものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「売上高」が45百万円、「売上原価」が10百万円それぞれ増加し、「販売費及び一般管理費」、「営業外収益」の「不動産賃貸料」、「営業外費用」の「その他」に含めて表示しておりました「不動産賃貸費用」がそれぞれ減少しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	16,089	5,789	3,065	24,944	45	24,990	—	24,990
セグメント間の内部 売上高又は振替高	24	2	13	39	26	66	△66	—
計	16,113	5,792	3,078	24,984	72	25,056	△66	24,990
セグメント利益	1,174	129	49	1,354	55	1,410	△356	1,053

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。

2 セグメント利益の調整額△356百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△356百万円が含まれております。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	15,895	6,270	2,971	25,138	50	25,188	-	25,188
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	2	-	5	25	31	△31	-
計	15,899	6,272	2,971	25,144	76	25,220	△31	25,188
セグメント利益	766	162	101	1,030	63	1,093	△389	704

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。

2 セグメント利益の調整額△389百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△379百万円、セグメント間取引消去△10百万円が含まれております。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来付随事業として位置づけていた不動産事業について、前第3四半期連結会計期間において当該事業を管理する部門を新設し「売上高」及び「売上原価」に計上する方法に変更したことに伴い、前第3四半期連結累計期間より当該事業を「その他」として報告セグメントに含まれない事業セグメントへ追加しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の方法により作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。